

でんさ節

(本調子)

すいまむ やーむ ふにぬ
1. 島持ついで家持ついで 舟乗るいでゆめむめでん
しーどうふなく うやふあす
舟頭舟子親子揃らにばならぬ でんさ

うやふあ ふあ きょうだい うとうどう
2. 親子かいしゃ子から 兄弟かいしゃ弟から
きないむ ゆみ ふあ
家庭持つかいしゃ嫁ぬ子から でんさ

びとう うふどう ついむくる
3. 人ぬ大胴やかなさねぬ 肝心どうかかなさーる
ついむくる りゅうむ しきん わた
肝心 良持つかばどう世間や渡り でんさ

つついし ふつい ふかん
4. むにいざば慎み口ぬ外出すなよ
ぬ
んだしからまたん飲みぬならぬ でんさ

くるま みぶし ふさび しんり みついば
5. 車や三寸ぬ楔しどう千里ぬ道ん走りみぐる
ひとみぶしすいた うふどう ふあ し
人や三寸舌しどう大胴や食い捨てい でんさ

家をまとめてこそ村もまとめられる。
家は船頭船子のように親子揃っていないと
ならない。

親子の良い関係は子供から。
兄弟は弟から。
家庭の良い関係は嫁の心持から。

人は体の如何によってではなく
心で評価が決まる。
良い心であれば世間を渡っていくことができる。

話し合いをする時は口を慎みなさい。
一度言った言葉を飲み込むことはできないの
だから。

車は三寸の楔で千里も走ることができる。
人はたった三寸の舌のために身を滅ぼす
こともある。

<解説>

「でんさ」は「～である」という意。
西表島上原村の与人が風俗の乱れを戒めるために創作した教訓歌。

<八重山>

でんさ節 (本調子) 歌:合乙老四上中工五

合 中`上 工 合 上`四 五`工 上 中 工 合 上`四

四

すいま む つい
うや ふあ かい
ぴと ぬ うふ
むに い ざ
くるま や みぶ

老乙命

合 上 中 工 合 上`工 中 工 上 中 工

ど ううや む うう つい いふ に むうるい どう うう ゆめう
しゃ ああふあ か ああら あきよ だ いしかい しゃ ああうとう
ど やあかな さ ねえぬ うつゐ む くうく る うどかなあ
ば ああつ ついし いみ いふ ついぬうふ か ああんだあ
し むうふさ び し いど うしん り むうみ つい いんぱりい

上 四 合 中`上 四 乙 合 合 乙`四 合 四 上

む むうでん しい どう ふう な あ く う や
ど かあら きい な いむ う つい か い
さ ある つい む くうく う る りゆう むつあ
す なあよ んん だ しいか あ ら ま た
み ぐる びい と やあみぶ し む すいた し

中 工 中 工 上 中 工 合 四

ふあ ああすら に ば な らあぬ でん さ
しゃ ああゆう み ぬ ふあ かあら
ば ああしき ん や わた らあり
ん んぬう み ぬ な らあぬ
ど ううふ どう や ふあい しいてい

1. 島持ついで家持ついで 舟乗るいどうゆめむめでん 舟頭舟子親子揃らにばならぬ でんさ
2. 親子かいいしゃ子から 兄弟かいいしゃ弟から 家庭持つかいいしゃ嫁ぬ子から でんさ
3. 人ぬ大胴やかなさねぬ 肝心どがかなさーる 肝心良持つあばどう世間や渡りり でんさ
4. むにいざば慎み口ぬ外出すなよ んだしからまたん飲みぬならぬ でんさ
5. 車や三寸ぬふさびしど千里ぬ道ん走りみぐる 人や三寸舌しど大胴や食い捨てい でんさ